

令和7年度 小樽市立忍路中央小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

令和6年度全国学力・学習状況調査から明らかになった課題は以下の通りである。

国語は、全国平均正答率を上回ることができたが、「話すこと・聞くこと」の正答率が44.4%と低い。話し合いの意図を汲み取り、それに沿って自分の考えを述べる力と内容を検討（複数の情報をまとめて伝えることができる）する力に課題がある。

算数は全国平均正答率を上回ることができたが、変化と関係の正答率が56%と他の領域に比べて低かった。目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かす力やともなって変わる二つの数量を見いだして、それらの関係を表や式を用いて変化を考察することについて課題が見られた。

ほっかいどうチャレンジテスト正答率について2年生算数が44%、3年生国語が17%算数が38%、4年生算数が55%、5年生算数が67%、6年生国語が62%算数が73%の正答率であり、前年度の目標値を達成することができなかった。

家庭学習や生活習慣については、学校評価児童アンケートでは端末を使った毎日の家庭学習について肯定的回答が77%、端末を使った個別最適な学びについての肯定的回答が77%、小樽スマート7の約束を守っているについて38%、本をほとんど読まない生徒が54%であった。家庭学習の定着と生活習慣の改善を進めるために長期休業明けの生活リズムチェックを夏冬に実施している。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・ほっかいどうチャレンジテスト正答率80% (R6 3年生78% 4年生63% 5年生66% 6年生72%)
2年	
3年	
4年	・確認テストに取り組む回数を2回以上 ・6年生は全国学力学習状況調査の平均正答率を全国平均以上とする。
5年	
6年	

<算数科>

学年	定着目標
1年	・ほっかいどうチャレンジテスト正答率80% (R6 3年生59% 4年生44% 5年生69% 6年生73%)
2年	
3年	
4年	・確認テストに取り組む回数を4回以上 ・6年生は全国学力学習状況調査の平均正答率を全国平均以上とする。
5年	
6年	

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・学年×10分+10分の家庭学習を毎日できる。 (60%以上)
2年	
3年	
4年	・保護者学校評価で規則正しい生活をしている90%以上 (R6:89%)
5年	
6年	

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

①授業改善

- ・「振り返り」から「見通し」のルーティーン化された授業の展開
- ・個に応じた意図的な指導と学習リーダーを中心とした共感的な授業の構築

- ・複式学級、少人数だからできる授業の構築

②基礎・基本の定着と発展問題

- ・学期末、確認テストの確実な実施と誤答問題の反復学習
- ・朝のチャレンジタイムを活用した漢字・計算等、反復による基礎・基本の定着

③学習規律の確立

- ・学び方のルーティン化

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

①複式授業の充実（学習リーダーの育成、自学自習の習慣）

②児童が見通しが持てる発問の工夫

③単元の見通しを持った指導目標、指導過程の工夫

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

①保護者と連携した望ましい生活習慣の育成

- ・生活リズムチェックシートの活用
- ・携帯電話・インターネットの使用時間や情報モラルについての学習会の実施

②家庭学習の取組や読書時間の確保

- ・毎日の宿題や自学の推奨による「学年×10分+10分」の家庭学習時間の確立

4 実施計画

年月	計 画 内 容
R7年 4月	新年度、学習規律の確認 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテストの実施（前年度サポート問題） ○R6全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
5月	・学力向上改善プランの見直し ・保護者会で取組説明 ・過年度確認テストの実施 ○標準学力調査結果分析
6月	・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・学校評価の実施
7月	
8月	○R6全国学力・学習状況調査結果分析 ・生活リズムチェックシートの活用 ・保護者へ学校評価分析報告 ○保護者へ調査結果の説明 ○学力向上プランの評価・改善
9月	・全国学力・学習状況調査過去問題の実施 ・チャレンジテスト2学期末問題 ・学校評価の実施 ・学校評価の分析と改善策の検討
11月	
12月	
R8年 1月	・チャレンジテスト冬休み版 ・生活リズムチェックシートの実施 ・当該年度確認テストの実施 ・全国学力・学習状況調査過去問題の実施
2月	○新学力向上改善プランの作成
3月	

5 評価方法

（１）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学校評価（教職員自己評価・保護者アンケート・児童アンケート）による評価や全学級授業公開による評価
- ②全国学力・学習状況調査、標準学力調査、各学期確認テスト、チャレンジテスト等による定着度の評価
- ③児童の「振り返り」や児童アンケート、教職員自己評価による検証

（２）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①研究の成果と課題による検証および、児童の様子やノート、各種テスト結果の記録化による検証
- ②授業公開や研究の成果と課題による検証
- ③小中併置校の利点を生かし、小中共同で取り組む教育活動の実践による検証

（３）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①生活リズムチェックシート・保護者アンケート児童アンケートによる評価及び検証
- ②全国学力・学習状況調査（児童質問調査）および、家庭学習ルーブリックや計画表による評価及び検証